第６５回　札幌矯正管区

管内被収容者美術・文芸等コンクール　入賞作品集

どさんこ

刑務所の受刑者や少年院の在院者は、施設の中で外部の専門家の方々のご協力を得て、クラブ活動や矯正教育の時間に絵画や書道、短歌などの作品づくりに取り組んでおり、これらの作品を対象として年に１回、コンクールを行っています。コンクールでは、各分野で活躍される専門家に審査をしていただいており、その結果、入賞した優秀作品を紹介します。

作品をとおして、彼らのことを知っていただくきっかけになれば幸いです。

美術部門　Ｐ１

書道部門　Ｐ５

ペン書道部門　Ｐ７

文芸部門　Ｐ９

美術部門

写生画　第一席

『夕焼け』

旭川刑務所　A・Y

大きな画面を緻密に描写した力作です。一筆一筆、丹精を込めて描いております。花や植物を色々な色彩で描き、豊かな自然が表現されております。

写生画　第二席

『春爛漫』

旭川刑務所　I・Y

画面全体が柔らかな中間色で統一され、落ち着いた雰囲気の作品です。遠近感の表現において、色彩が単調になったのが惜しまれます。時間をかけ丁寧に描いた努力作です。

写生画　第三席

『秋』

函館少年刑務所　A・D

力強い色彩で見る人に強い印象を与える作品です。特に、中景にあたる紅葉の色彩の変化、近景にある緑系の植物による色彩の対比が効果的で、秋の自然を豊かに表現しております。

自由画　第一席

『和洋折衷』

帯広刑務所　Y・S

色々なモチーフ（題材）を作品に取り入れ、見事に描いており、見る人に強い印象を与えます。発想力が豊かに感じられ、題材の組み合わせも見る人に色々と想像や興味を抱かせるユニークな作品です。

自由画　第二席

『意輪龍観音菩薩』

月形刑務所　T・Y

点描による描写で表現した努力作です。形の表現や明暗を点の粗密や濃淡で表現し、技術的にも優れた作品です。

自由画　第三席

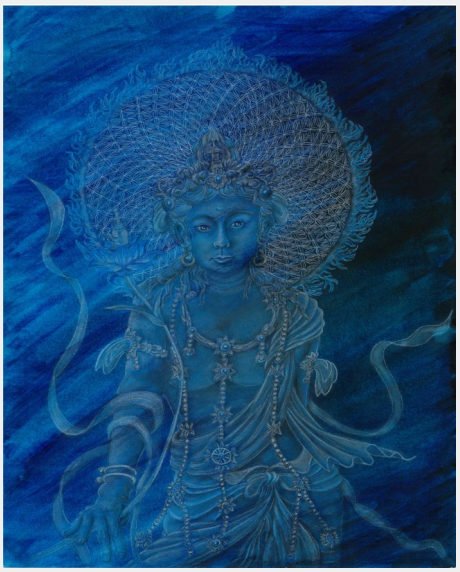
『大鷹』

旭川刑務所　A・Y

細かなタッチで画面全体を描写した力作ですが、ややマンネリ感も残ります。色の重なりや色彩の変化、遠近の表現に工夫の跡が見られますが、同じ色の繰り返しが画面を少し単調にしております。

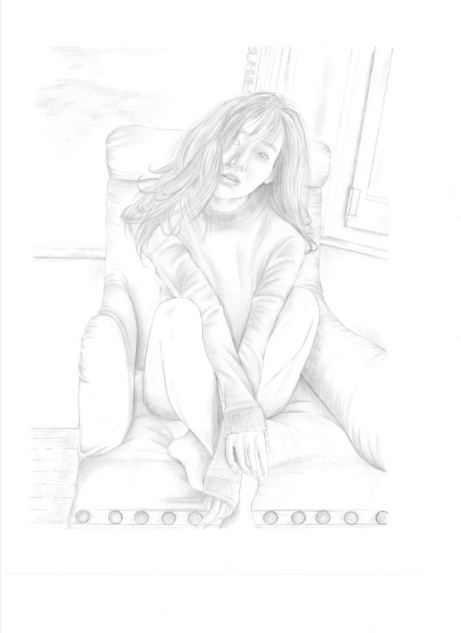
自由画　佳作
『 鬼若丸の鯉退治 』　月形刑務所　Ｔ・Ｔ

自由画　佳作
『 狂奔 』　函館少年刑務所　Ｙ・Ｋ



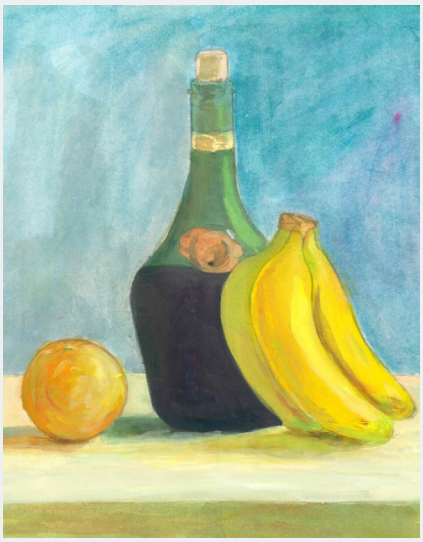
自由画　佳作
『 弥勒菩薩 』　旭川刑務所　Ｔ・Ｔ

写生画　佳作
『 春の棚田 』　旭川刑務所　Ｙ・Ｈ



写生画　佳作
『 みんなのみな実 』　網走刑務所　Ｋ・Ｙ

写生画　佳作
『 甘い誘惑 』　札幌刑務支所　Ｓ・Ｒ



絵画　佳作
『 静物画 』　北海少年院　H・Y

絵画　佳作
『 静物画 』　北海少年院　O・Y

絵画　佳作
『 私の好きなもの 』　紫明女子学院　K・M

入賞作品展の様子

総評

【写生画】（成人の部）

写生画部門では、風景画が多く、他に人物や静物を題材にした作品でした。その中で描く対象物をよく観察し、一筆一筆、丁寧に描いた作品が入賞しました。特に強い色彩で力強く描いた作品や弱い色彩ではあるが緻密な描写で描いた作品、作者の観察力が感じられる佳作も心に残りました。

【自由画】（成人の部）

この部門は出品数、レベルの高い作品が多くありました。したがって、入賞に値する作品も多数ありました。その中で今回入賞した作品は、題材の新鮮さ、発想のユニークさ、作品を描く描写力や緻密な表現等を考慮し、総合的に評価いたしました。

【絵画】（少年の部）

出品数が少なく、入賞にふさわしい作品が残念ながらありませんでした。出品３点は、努力を認め、佳作としました。絵を描くことにより、集中力を養い、何事にも前向きに努力する姿勢を養ってほしいと願っております。

※少年の部 第一席、第二席及び第三席は該当なし

書道部門

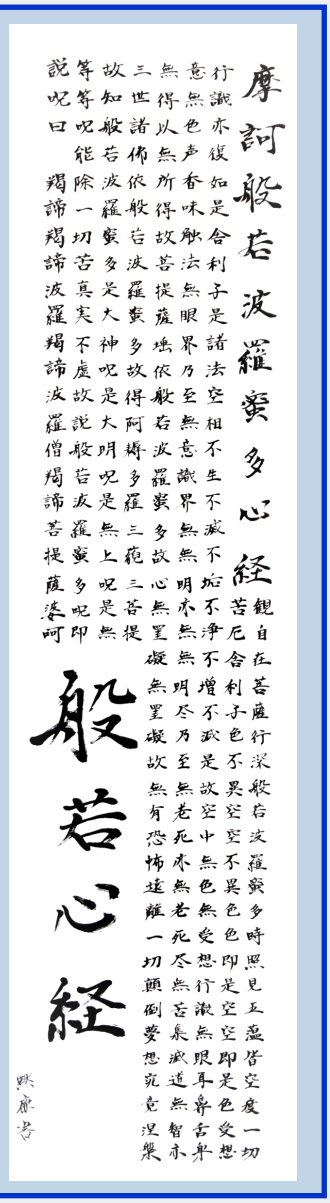
書道（成人の部）第一席

『曹全碑』

網走刑務所　N・S

これだけの多字数を美しい波勢と共に、丁寧に書き通した臨書作品です。起筆から終筆の一画までの気力が貫通して見事です。習練を積み重ねた姿勢に魅せられます。今後は、少し緊張を緩めると清々しい波動が増すことでしょう。

書道（成人の部）第二席

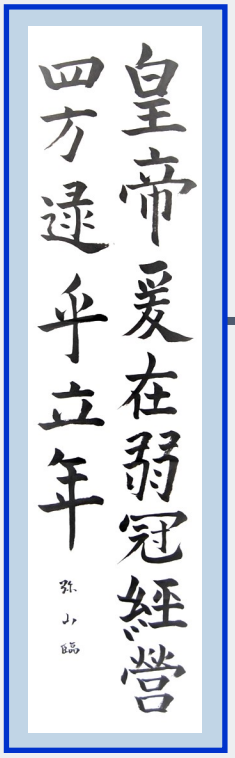


『般若心経』

月形刑務所　A・A

行き届いた構成の作に感慨も一入です。写経は自己との対峙のうちに無我の境地に没入してゆく、浄めの所作です。この「般若心経」の見せる写経としての立ち姿は、堂々たるものです。一字一字に祈り、集中する気の統一は立派です。

書道（成人の部）第三席



『無題』

旭川刑務所　S・T

楷書の古典で多くの人が習ってきた「九成宮醴泉銘」です。縦長で背勢の字形の特徴も書きこなし、キリッとした書線で、点画の接触も巧みです。「爰」「逮」「年」整然と輝いています。

書道（少年の部）第一席

『喜』

紫明女子学院　K・M

単純明快な「喜」一文字の作品に心がひきつけられました。もっとも基本的な縦と横の筆画で構成されている文字だけに、書き手の心情が真っ直ぐに伝わってきます。清らかな空気が満ちています。

書道（少年の部）第二席

『字形学手本』

北海少年院　M・S

五文字の配置に苦心されたことと思います。書の基本である運筆の具合を習う姿勢がよく感じられます。惜しむらくは、下部の「学」「本」を余裕を持って書いてほしかった・・・。

書道（少年の部）第三席

『雨過四山低』

北海少年院　H・T

力強い線が縦横にみなぎる逞しい作品です。丸味のある画の線との調和にほっこり!!します。ただ後半の二文字が小さく残念です。

総評

【書道（成人の部）】

なかなか収まらないコロナ感染症への不安、書く時間も制限されたことでしょう。大・中・小の文字を半紙に半切にと多様な作品が届きました。多字数の古典を丁寧に清書を重ねた臨書作品や短い言葉をじっくり噛み締めるかの力作も寄せてくれました。一枚一枚の心の波動を聞き、真摯に向き合わせていただきました。

一席には、多字数でありながら隅々まで清楚な線が行き届き、伸びやかな波勢も終始一貫して美しい八分隷を書きつくした『曹全碑』の臨書作品を選びました。次点には、「般若心経」の構成美と「九成宮醴泉銘」の清々しい楷書作品にしました。

自由に筆が運ばれますためにも、これからも古典に没頭してください。重ねるごとに自分自身の不自由さに気付かされ、わがままになる自分にブレーキをかけてくれます。こうした手書き文字文化「書」に親しみ、深めていきましょう。

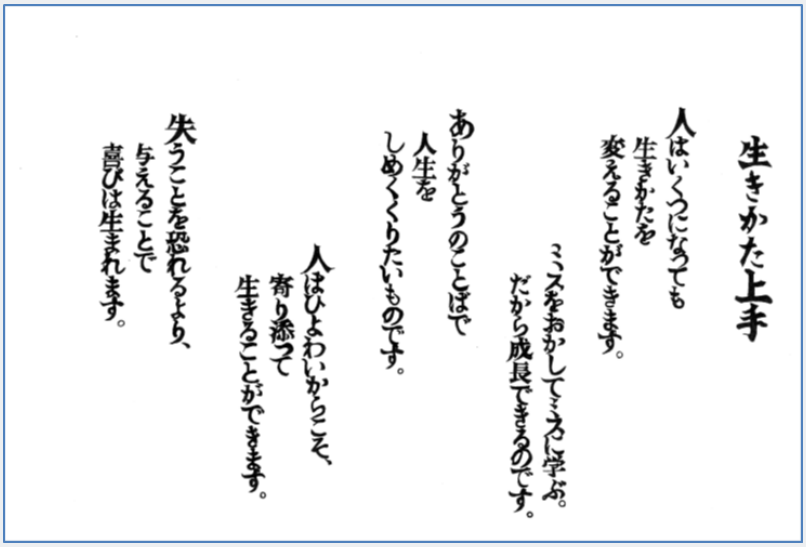
【書道（少年の部）】

なかなか収まりませんコロナ禍、書く時間も限られましたのでしょう。少年の部は、半紙の作品のみでした。今年は一文字の「喜」、引き締まった直線でがっちり組み立てられた清潔な作品を一席といたしました。また、難しい言葉と真剣に取り組んだ作品は器用ながらも、もっと気迫を込めて全身で書いてほしかった。

古くから優れた作品は、線の色つやがよく、光り輝きがあって美しいと言われてきました。同じ紙、同じ墨、同じ筆で書いていても各々に違いが生じます。上手な人が書くと光が射してくるという感じを持つことがあります。筆者の気力と運筆の関係が大きいと科学的な研究でも表されています。何より若い皆さんが、日本の手書き文字文化の「書」に集中し、自分の癖を知ってください。自分磨きになります。次の一作に期待しています。

ペン書道部門

ペン書道（成人の部）第一席

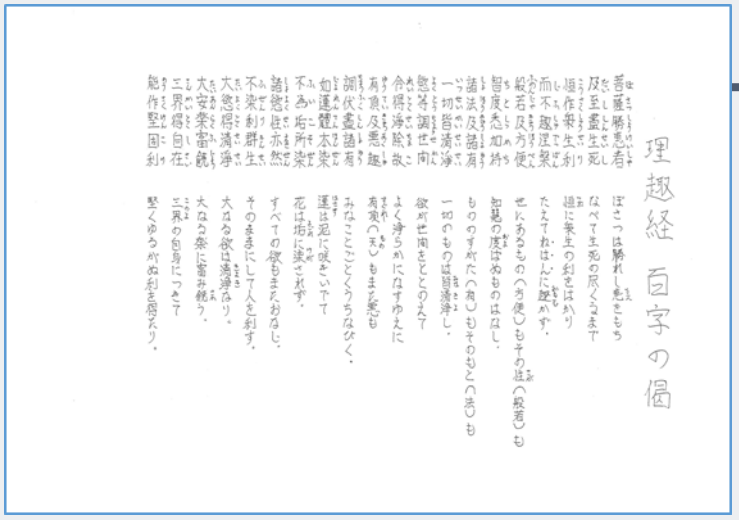


『生き方上手』

函館少年刑務所　K・T

見せる作品です。題字・配置・字形どれも完璧でした。久しぶりに即決で一席となりました。小さな工夫もされていて、時間もかかり几帳面さが伝わって来て感動しました。

ペン書道（成人の部）第二席



『理趣経　百字の偈』

帯広刑務所　A・T

字数が多くなると読みにくいものですが、とても正確に構成されていてインク汚れもなく、清々しい仕上がりです。努力を認めます。

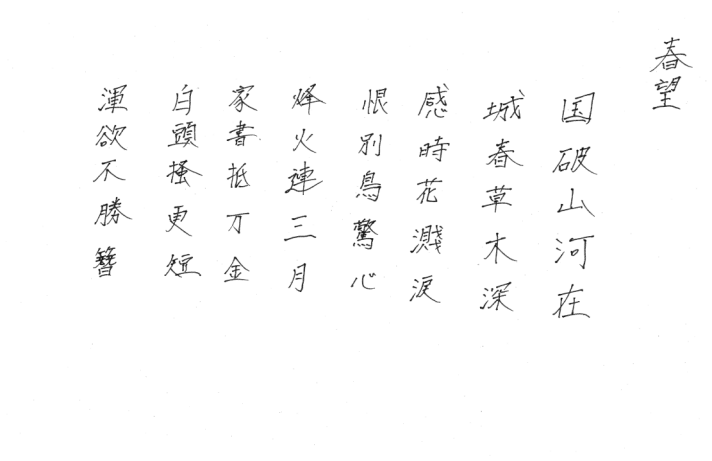
ペン書道（成人の部）第三席

『天網恢恢、疎にして漏らさず』

札幌刑務支所　O・R

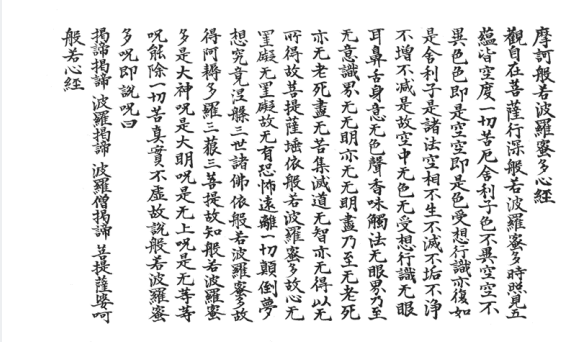
デザイン・発想が素晴らしいです。筆ペンと鉛筆、定規、消しゴムまで使い全体を細やかに又柔らかく表現できたことが良かったです。

ペン書道（少年の部）
第三席



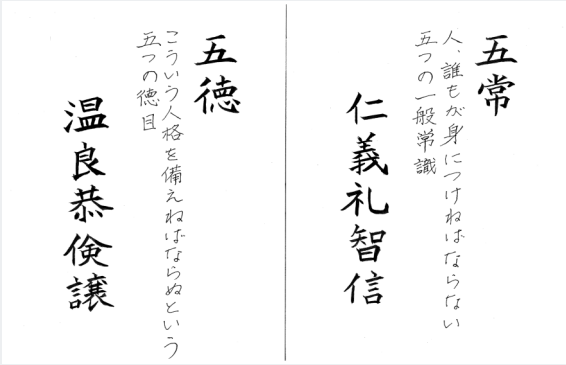
『春望』
北海少年院
B・R

文字の大きさ・配置が良く、誤字もなく第三席になりました。もう少し丁寧に書けるよう練習すると、もっと良くなります。


摩訶般若波羅蜜多心経
観自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舎利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舎利子是諸法空相不生不滅不垢不浄
不増不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明尽乃至无老死
亦无老死尽无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜
多是大神呪是大明呪是无上呪是无等等
呪能除一切苦真實不虚故説般若波羅蜜
多呪即説呪曰
揭諦揭諦 波羅揭諦 波羅僧揭諦 菩提薩婆訶
般若心経

ペン書道　佳作
『 般若心経 』　網走刑務所　T・E

ペン書道　佳作
『 ここにいるよ 』
函館少年刑務所　I・K



ペン書道　佳作
『 五常・五徳 』　旭川刑務所　Y・H

総評

【ペン書道（成人の部）】

選ばれた作品は、創意・工夫がありました。文字を上手に書けば選ばれると思うかもしれませんが、作品書きとなると少し違います。以下、佳作となった「般若心経」は、お手本になるほど立派な線・運筆です。サラッと大字を筆ペンで書いた「忘れな草」、「五常・五徳」も美しい文字でしたが、今ひとつ「見せる工夫」が必要かと思います。構成をしっかり考えてから書いて下さい。

【ペン書道（少年の部）】

作品を選定するだけありませんでした。それがとても残念です。文字を書くことが段々、必要とされていないのでしょうか。しかし、漢字を覚えるには眺めているだけでは身に付かないです。やはり書いて下さい。１回より２回、２回よりもそれ以上・・・その上に美しい文字、正しい文字が生まれます。

※少年の部　第一席及び第二席は該当なし

短歌
（成人の部・少年の部）

文芸部門

成人の部

第一席

面会が可能になる日「なぜ来ぬ」と
文句を言える妻に会いたい

札幌刑務所　O・J

第二席

命生み命をつなぎ時として
命を奪う水で生きている

旭川刑務所　K・I

第三席

昭和には空襲平成には震災
令和は平和な三月であれ

月形刑務所　O・H

第一席　とにかく妻に会いたい、何でも言える妻に会いたいという気持ちがストレートに伝わってくる。リズムが良く、言葉の選択にむだがない。妻との距離の近さが「「なぜ来ぬ」と文句を言える」に表れている。そして、妻に言う文句は「なぜ来ぬ」、裏を返せば、「来てほしい」という気持ち。「妻に会いたい」という結句が心に響いてくる。家族と離れて暮らしている生活のなかで、家族に会いたい気持ちは切実であろう。共感を呼ぶ。

第二席　スケールの大きい歌である。命は海から誕生した。人間の身体にはたくさんの水分が含まれており、成人ではその割合は60％から70％と言われ、水は常に人間の身体を循環している。詠われているように水は命を生み、つないでいる。水が豊かな日本の日々の生活のなかで、水によって命をつないでいることは忘れがちであるが、水の貴重さを思い起こさせてくれる。時として、災害時には水が多くの命を奪うことも捉えつつ、その上で水への感謝の気持ちがある。水や命について深く考えさせてくれる歌である。

第三席　昭和の戦争の時代まで遡って、平成、令和と時代を大きく読み取って詠っている。昭和の頃は第二次世界大戦があった。平成になり、阪神・淡路大震災やここで詠われている三月には東日本大震災という未曾有の災害が起きた。令和はどんな時代になるだろうか。すでにコロナ禍、そして現在はウクライナで戦争が続いている。「平和な三月であれ」は作者の祈りであるとともに、皆の心に共通する祈りでもある。三十一文字という短い詩型のなかに簡潔に時代を詠み込み、平和を希求する優れた歌である。

少年の部

第一席

諦めた夢への扉逃げていた
あの日の自分向き合う時だ

北海少年院　N・R

第二席

以前なら自分の意見押し通す
今は他人の意見も聞ける

北海少年院　M・K

第一席　生きてきた道のりを振り返る余裕が生まれた。夢に向かって生きていた時があり、その夢を諦め夢から逃げて過ごしていた時があった。そして、今、夢から逃げた自分に向き合う気持ちになっている。夢を諦めた自分に向き合うのは苦しいことではあるが、それができたら、夢に向かって、新たな一歩を踏み出すことができる。希望を持って前に進もうとしている心情が真っ直ぐに伝わってくる。

第二席　自分のことを見つめるのは、簡単なようでむずかしい。しかし、以前の自分は「意見を押し通す」自分であったという気づきがあった。今は「他人の意見も聞ける」ようになり、大きな成長があった。自分の成長を短歌に素直に表現することができた。これからが楽しみである。

総評

【短歌（成人の部）】

今年も良い作品がたくさんあり、選歌が大変だった。毎日の生活における小さな出来事をしっかり捉えている歌、故郷や家族を偲ぶ歌、自然を詠った歌、さまざまに個性の光る歌が応募されており、それぞれの歌から情景や心情が伝わってきた。また、自分の身のまわりのことだけではなく、コロナのこと、そして、今年度は現在起きているウクライナでの戦争など国際社会に目を向けている歌も目についた。「喜びも苦も我歴史重ねつつ日記の如く短歌をノートに」（旭川刑務所）と詠まれているように、日々の生活の中での感慨を短歌という詩型を使って表現すると、日記のように残すことができる。五音、七音は日本語のなかに溢れているので、是非、言葉を使って自分の心を短歌に表現していただきたいと思う。来年の作品も楽しみにしています。

【短歌（少年の部）】

応募数が少なかったため、第二席までになった。応募数が少ないながらも、どの歌も心情を素直に表現しており、若者らしい感性でしっかり詠われている。身のまわりの自然に心を開いて詠った歌、社会生活における自分をコントロールすることの難しさや後悔している心情、孤独感を吐露している歌など、多様な歌があり、短歌は若者たちの気持ちを表現できる器になり得ているようである。客観的に自分を見つめて、前向きに生きていこうとしている心情を詠った歌もあり、日々の学びに真摯に取り組んでいる姿が感じられた。

※少年の部　第三席は該当なし

俳句

（成人の部・少年の部）

成人の部

第一席

雷鳴やすでに激しき草の雨

網走刑務所　S・H

第二席

祭果て開くや風の通り道

函館少年刑務所　K・T

第三席

病めば病む人と親しく濃紫陽花

札幌刑務所　O・M

第一席　遠くの雷鳴を覚えて、干し物の取り入れに慌ただしい時、庭の草々が揺れて雨が来た。「草の雨」の表現は、かなり俳句を学んだ作者だろう。

第二席　祭りの夜店の感じだろうか。人が切れ間なく混んでいたが、祭りが終わると自然に風が吹き抜ける。夜店に多少関係のあった人の作品かもしれない。好い句だ。

第三席　知人が病んでいたか、自分も病を告げられた。急に「相哀れむ」ではないが親しく付き合うようになった。濃紫陽花との取り合わせがさすがだ。

少年の部

第一席

退院時車窓から見る冬紅葉

北海少年院　M・K

第二席

焼き芋はポカポカしてるあったまる

北海少年院　H・Y

第三席

雲の峰夕映え晒す波景色

北海少年院　B・R

第一席　長い入院生活、青葉の時期から紅葉へ。しかもすでに冬紅葉になってしまった。退院できた歓びと健康時への回顧なのだ。全快が見える。

第二席　余程寒いところで作業をしていたのだろう。焼諸の焼き立てを掌に感じている至福。平凡なことに感じる幸せに共感する。

第三席　夕映えのキラキラした輝きをつくる波頭、まだ雲の峰が湧き立っているのだろう。如何にも長い夏の夕方を詠んでいるのだが、明るさを作品にするのは中々むずかしい。

総評

【俳句（成人の部）】

総数２６３句の御応募は、選者として誠に嬉しいことだった。ただ作品の幅が大きく、違うことを感じさせられた。各地域の先生方に俳句の基本を少し指導していただいたら、まだまだ作品に力がつくと考えられる。大事な「季題」が詠まれていない作品が多々あったことは惜しまれる。

【俳句（少年の部）】

同一施設で、然も同一作者の作品が多く、選句に迷ったが、季題を詠み込み定形を保つ作品を採用させて頂いた。是非、俳句を勉強し、自然を詠み、字を覚え、言葉を覚え、より良い作品に挑戦してほしい。

詩

（成人の部・少年の部）

第一席（成人の部）

「老師」

旭川刑務所　K・K

「生きがい？」
そんなの腹の足しにならねーもん
ドブに捨てちまったよ
「夢？」「希望？」
そんなもんオバケと同じじゃねーか
あるなら目の前に出してみろよ

人生に絶望し、自棄になってた時
僕を包み込んだ光
明るくて、どこかに導く
灯台のような暖かい光
それは貴方の小さくも大きな背中
寡黙な貴方の雄弁な背中
貴方の背中から学んだ多くのこと
「自分の仕事に手を抜かない」
「どんなことにも誠実さを忘れない」
「自分を大切にする」
「他人を思いやる」
数えたらキリはないけど
できる限り実践している

疲れた時、気分が乗らない時
貴方の背中を想い出しては
襟を正している
調子に乗っている時
貴方の背中を想い出しては
自分を戒めている
落ち込んだ時、悲しくなった時
貴方の背中を想い出しては
心を奮い立たせている
イライラしてる時
貴方の笑顔を想い出しては
ほっこり癒やされている

今の僕を見た貴方は、何を思うだろう
寡黙な貴方は、得意の少し照れた
笑顔でうなずいてくれるだろうか
僕は今日もまた
見えない貴方の背中を羅針盤にして
まっすぐ歩いているつもり

いつか貴方に聞いてみたい
僕は貴方の背中へ向かって
正しく生きていますか？

思い出されるのは、老いた先生からの渋くて味わい深い言葉の数々。それは恰も人生を熟知しているかのように振舞っていた僕への、歩むべき方向を示唆する人生の達人からの励ましの言葉なのです。

第二席（成人の部）

「今この瞬間」

網走刑務所　S・H

季節の移ろいは、歳を重ねるごとに早くなっていく。
自分の過去を振り返れば、後悔ばかりで、取り返しのつかない人生を歩んで来た。
やり直したい！このままじゃ終われない！まだやれる！やりたいんだ!!置き忘れた時間を、諦めずに取り戻し、ひとつひとつ超えて行きたい。
悲しい過去は変えられない。
涙流すなら今流して、絶望を希望に変えて、人として人間として、明日という未来に向って、力強く生きて行きたい。
今この瞬間を!!

私たちを包んでいる全ての事柄は、実は連続しながら瞬間々に、それぞれの働きをもちながら、結びついています。それ故、この瞬間、刹那を重視して、自らを高めたいと決意するあなた。誠に至言と感じました。

第三席　（成人の部）

「しあわせ」

函館少年刑務所　K・T

幸せは、誰かや、何かに与えてもらうものではない。他の人と比較して喜ぶものでもない。幸せは自分で手に入れるもの。そういうものだ。

基本的に幸せは、自分の中にある。自分の中にある思い、希望、力、そういうものを見つけて、育てて、手にしていく、そういうものだ。

年齢とともに、わかることがある。人との繋がり、仕事の大切さ、生きて行くこと、人の気持ち、そういったものだ。若い頃には大して重要に思えなかったものだ。
だけど、その気付かなかった存在に気付きはじめたときから、わかることがある。自分がほしいもの。手に入れたいもの。大事だと思えるもの。それが何か、を。

かつて私も、自分のほしいものが何かわからなかった。そのときの私は、自分の中よりも、外にばかり目がいっていた。
でも、それが、あるときから変わった。自分に何もないこと。何も持っていないこと。そのことに気付いたとき、自分の中にあるもの、あってほしいと願うものを必死で探しはじめたからだ。

「もし、あのとき」と思う。もし、あのとき本気で向き合っていないなら、私の人生は、今と違うものになっていただろう。
それがどんなものかはわからない。だけど、多分、私は、自分の幸せを手にするため、多くの時間を使っていたと思う。それを想像すると、すこし、こわい。

どんなときでも、どんな時代でも、できることがある。それが「意識して背筋を伸ばす」ことだ。背筋を伸ばす。それは、自分を見つめて、自分の声に耳を傾けて、自分ら

しく生きていくことだ。私もそうなれたらいい。そう思った自分をなくさないでいられたらいい。

どんなに時間が流れても。どんな時代がめぐってきても。それが自分の幸せに繋がっていく。今、私は、そのことを信じながら生きている

しあわせという言葉ほど、今日多義的に使われているものはないのではないか。実に多く耳にし、目にする言葉です。控えめな表現ですが、あなたなりに会得したしあわせ哲理に耳傾けるに足る十分なものを感じました。

入賞作品展の様子

第一席　（少年の部）

「千羽の鶴」

北海少年院　O・A

深夜を徘徊した。
夜を飛び回るふくろうのように
悪さを繰り返した。ゴミ箱を
荒らす迷惑なカラスのように。

同じような反省の言葉を並べて
インコのようになっていた。

更生するために残りをはめていく
自分というパズル。

完成した時に社会に羽ばたく
僕たちが千羽鶴

悪さを繰り返す自分を、ふくろう、カラスに例え、反省を繰り返す自分をインコに例えた表現は、とても印象的です。また、さりげなく短い表現からは、凝縮された思いが感じられ、不思議な真実味が伝わります。パズル、千羽鶴へと続く言葉に、前進と飛躍の響きが感じられます。

総評

【詩（成人の部）】

心と言葉を結んで生まれたものが詩であるとするならば、それは全く自分だけに宿る唯一、自分だけの営みと申しても過言ではありません。この営みを大切にされますように。

凝縮した言葉を自在に使っての自己表現、それは詩創作の原点です。今回寄せられた26点の作品には、実体験、反省、思い出、恋愛、季節の表情等が主題で、内容も実に様々です。書き手としての皆さんの息づかいがひしと伝わってきます。一層の精進を願っています。

【詩（少年の部）】

ここ3年間の応募作品数は、令和2年度は3点、令和3年度は3点そして令和4年度は1点でした。

28歳で病気で亡くなったブッシュ孝子さんという詩人がいます。病床の中で、92編の詩がノートに書き残されました。その中に次の詩があります。

私は信じる
私にも詩がかけるのだと
誰が何といおうと
これは私のほんとうのうた
これは私の魂のうた
ブッシュ孝子『暗やみの中で一人枕をぬらす夜は』（新泉社）より

自分と向き合う中で詩が生まれるならば、それは一つの個性です。他の詩を読むうちに、自分も詩を書きたいと思えるならば、それもかけがえのない個性です。正直な自分が、言葉を通して生まれ出ようとします。リズムに乗って言葉を見つけようとします。時には苦しい瞬間かもしれません。しかし、出来た作品は自分の分身です。かわいい分身です。

だれもが詩を書きたいと思うかどうか、わかりません。しかし、だれもが詩で表したいものがあるわけではありません。詩を書く行為、書きたいという思いそのものは、一つのかけがえのない個性です。詩を書くことを楽しみ、書くことで新しい自分を見つけることができるならば、未来の自分を形作る確かな手段になることでしょう。音楽に似ているのかもしれません。

※少年の部　第二席及び第三席は該当なし

随筆（成人の部）

	作　　者	タイトル	講　　評
第一席	網走刑務所 Ｓ・Ｈ	「写経を学んで」	修養の一環として、仏典のエキス「般若心経」三百文字を書写することを通しての喜び。また、奥義に宿る自在の境地をも知ることができた。『おくのほそ道』“立石寺”の条ー「こころ澄みゆくのみ覚ゆ」の文言を私は思い出しました。
第二席	旭川刑務所 Ｙ・Ｈ	「短歌と出合って」	ふとした動機から短歌と出会い、今では短歌作りが心の糧になっているとのこと。誠にすばらしい。この貴重な経験を豊かに、更に向上の道を歩まれますよう心から願っています。
第三席	札幌刑務所 Ｓ・Ｄ	「丘の上の喫茶店」	文章展開に沿って、自分なりに情景をイメージしてみました。人と人との出会いを軸に、そこから生まれた奇しき縁。社会復帰後は、奥様共々、思い出深いお店で、コーヒーカップを片手に好きなジャズ音楽を心ゆくまで楽しんでください。

今年度、令和４年文芸コンクール随筆部門には、道内５つの施設から、１８点に及ぶ作品が寄せられました。
今年も、今以て収束をみないコロナ禍の中で、原稿用紙に向かっているみなさんの姿を想像しながら読みました。
寄せられた作品、どなたのを読んでも、水準は高くなっているとの率直な感想をもちました。具体的には、内容、構成、語句の使い方などから、指摘することが出来ます。また、具体的な事柄に自身の心情を交えて書き述べ、内容が豊かに広がるなど表現方法にも工夫が見られ、一つひとつの作品がより充実したものになっています。

読書感想文（成人の部）

	作　　者	タイトル	講　　評
第一席	札幌刑務支所 Ｉ・Ｃ	『あしながおじさん』を読んで	今日配架されている小説、物語類の殆どは、散文体形式のものが主流ですが、この作品は終始手紙文です。主人公のジェルーシャ・アボットことジュディの堅実な生活態度とユーモアはやがて篤志家あしながおじさんの心をとらえたのです。作品をよく読み、感想も無理なく述べられています。
第二席	札幌刑務支所 Ｏ・Ｒ	『君たちはどう生きるか』を読んで	作者の少年時代の体験とそれまで積み上げてきた考え方を土台に生まれたのが、この作品です。人は本来、何が正しいかを付与され、それに基づいて行動するが故に、後悔や苦しみ、葛藤が生まれる。この思い、問いかけ、大切に育てていきたいものです。
第三席	網走刑務所 Ｓ・Ｈ	『アキラとあきら』（上、下巻）を読んで	文章展開に沿いながら、思いが述べられています。後半に至り、読者価値についてのお考えは傾聴に値する貴重なものです。

今年度、令和４年文芸コンクール読書感想文部門には道内６つの施設から、２８点に及ぶ作品が寄せられました。この分野の基本は申すまでもなく、本です。読書し、そこから得られた思い、感想を述べることです。しかし、どんな本でも感想が書けるのかというとそれは難しい。感想が書ける即ち読んで感想がわいて来るとは、作品内容に共感できる、読み手の心が広がる、ゆすぶられる等々の思いが基底にある本を選書することが求められます。以前、どなたかの文章に“本は知識の海である”との文言がありましたが、誠に至言であると感じました。

作文（少年の部）

	作　　者	タイトル	講　　評
第一席	北海少年院 Ｍ・Ｋ	自分の考え	入院してからの心の変化が丁寧に描かれています。一冊の本との出会いをきっかけに、被害者の思い、親の思いを想像できる自分へと変化が訪れました。親への感謝と、未来の自分に向けて自分を変えようとする強い思いが伝わります。「自分を見つめること」の意味を知り、心の成長が記録されました。
第二席	北海少年院 Ｈ・Ｙ	大切な人	先生の問い「大切な人はだれか」に正直に向き合ったことで、自分を心から心配し期待している人の存在に気づくことができました。後悔、感謝、心の真実が伝わります。めざす人生に向けて、自分をどのように育てるか、決意に向けての大事な毎日が始まりました。
第三席	北海少年院 Ｓ・Ｋ	頑張りすぎないようにゆっくりと	読書を通して学び、考え出した、頑張り方を考える三か条は説得力があります。自分をコントロールすることの難しさではなく、楽しさを発見したことの喜びが感じられます。また、読書を、課題解決の道具として有効に活用している点も見事です。

読書感想部門から「作文」部門に移行して９年目。応募作品数は，令和２年度４点，令和３年度３点，そして令和４年度は３点でした。

それぞれの作品の中に、自分の考えを変えるきっかけが書かれていました。本との出会いや読書であったり、先生の言葉や職業人の先輩の言葉であったり。それらとの出会いを通して、自分の見つめる目が深くなり、また周りを見る目が、優しくきめ細かくなりました。ゆっくり考えること、立ち止まって考えることの大事さがうかがわれます。

書くことは考えることです。また、書くことは自分を見つめることです。自分と向き合うことで見えてきた思いや考え、「なりたい自分」は本物だと思います。書いてみると、もう一人の自分が現れます。その自分の前ではウソは書けません。心に照らしながら、書いたり書き直したりします。そのような作業を繰り返しながら、書くことはいつの間にか自分を成長させてくれます。成長した自分は、たくさんの人の中に入っても自分の中のどこかに生きています。「書くこと」で鍛えた自分が、迷った自分に対して、知恵と勇気を与えて正しい判断の後押しをしてくれる優しい自分になると信じます。

毎年開催している作品展では、各部門の第一席から第三席までの入賞作品を展示します。詳細は法務省ホームページ内の「札幌矯正管区フロントページ」に掲載します。

【札幌矯正管区フロントページ】

札幌矯正管区フロントページ　検索

第６５回　札幌矯正管区

管内被収容者美術・文芸等コンクール　入賞作品集

令和５年２月　発　　行

編集・発行　札幌矯正管区第三部

発　行　所　札幌市東区東苗穂１－２－５－５

ＴＥＬ　０１１（７８３）５０６３

ＦＡＸ　０１１（７８０）２２０７